

【委員会における議論のポイント】

今回の格付け結果は、C評価が2名、D評価が6名と総じて低い評価となった。

委員の構成に関しては、建築関係の専門家が委員に入っていない点をマイナス評価する委員が複数いた。

事実認定に関しては、施工不備の内容が詳細に認定されているとして、各委員とも総じて高い評価となった。もっとも、全棟調査を会社に任せ、その内容が正確であることを前提とし、全棟調査の信頼性や正確性を確認していない点についてマイナス評価をする委員もいた。

原因分析に関しては、各委員とも総じて低い評価となった。深山祐助氏が退任した2006年以降、姫路訴訟が起きた2011年以降における調査や原因分析が不足しており、特に、直近まで社長を務めていた深山英世氏に対する調査や原因分析が不足という委員が大勢を占めた。また、個々の役員が不正を認識していたかの認定に偏っており、長期間不正を発見できなかったレオパレスの内部統制の不備に対する原因分析が不足しているという委員が複数いた。さらに、建築技術者の倫理面からの原因分析が不足しているという委員が複数いた。

再発防止策に関しても、説得力や実効性に疑問があるとして、各委員とも総じて低い評価となった。

以上